

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道



西
山
雲
水
月

平成17年住職年頭挨拶

謹賀新年

「念すれば花開く」

さかむらしんみん
佛教詩人 坂村眞民

よく使われる言葉なので古い慣用句かとお思いの人も多いのではないのでしょうか？この言葉は、佛教詩人として九十六歳の今も現役で活躍されている坂村眞民氏の詩の一句であります。

さて、「念する」とは一体？それは、常に心に思うこと、そのものであります。すなわち、目標や願い事をいつも心に思いとど留めていと、いつかは成就じょうじゆの花が開くのだ、という意味であります。



新しい年の年頭にあたり、皆様が念じた思いとは？咲かせたい花とは？

この「念」を大切にしてい頂き、今年も目標に向かって各々精進していただければと思っております。

本年も、宜しくお願い申し上げます。

平成17年 龍源寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈禱
- 1/3~1/4 年始挨拶
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 涅槃会
- ※3/14 大般若・大施食会
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- ※4/8 花祭り
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- 7/13~7/16 県外檀信徒棚経
- ※7月下旬 第24回子ども禅の集い
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- ※12/8 成道会
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は本寺仁叟寺にて開催

平成17年 年回法要一覧表

一周忌	平成十六年	二十三回忌	昭和五十八年
三回忌	平成十五年	二十七回忌	昭和五十四年
七回忌	平成十一年	三十三回忌	昭和四十八年
十三回忌	平成五年	五十回忌	昭和三十一年
十七回忌	平成元年	百回忌	明治三十九年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。

※2 該当檀信徒各家にはハガキにて通知が届きます。

だいせいきえ

當寺大施食會告知

今年も4月29日（祝日、みどりの日）に当寺大施食會を行う予定であります。また、昨年同様に本堂に移転いたしましたこかげさんだいこんげん蚕影山大権現れいさい様の例祭と併せて行います。追って通知が届くかと思ひます。宜しくご協力の程、お願い申し上げます。

一昨年は式の前に住職と親交のある講師、櫻井若洲師匠に講談を、昨年、同じく親交が深い福島県原町市のしんしょうじ新祥寺副住職である野田精頭師の法話を賜りました。今年、「山雲水月」紙上でも紹介いたしました当寺かいき もんなろくざえもん開基の門奈六左衛門の子孫にあたる窪田広氏に講演をお願いしております。

龍源寺本堂→

当寺の歴史上、開基氏がここ龍源寺に参詣に来たと



はたもと

という記録はありません。（※門奈氏は旗本こうふきんばんで甲府勤番という役を代々勤めており、多胡地区に所領はあったが、実際に来られた事はないとまつえいいうことです）その開基門奈氏の末裔の方が、龍源寺の歴史及びこの地域の歴史を話して下さい。

檀信徒の皆様はもとより、興味のある方は是非とも参加して頂ければと思っております。

龍源寺探索-9-



ようそ あぜかみ
↑「養素」 畔上禅師の書

今回の探索では、当寺本堂にあるへんがく扁額を紹介いたします。この扁額は大本山總持寺の貴首様であった畔上そうじじ 樗仙かんしゆ 禅師あぜかみばいせん（1825年~1901年）の書です。「養素」と書かれています。素を養う、すなはち心を養う、己を養うそういった意味であります。

畔上禅師は、長野の人で各地の住職を歴任した後、大本山總持寺の貴首となり法靈普蓋禅師の号が贈られました。また、曹洞宗の管長を二十年以上もの長きに亘って務められました。

一昨年に書の保護の為、アクリル板を付け額を補修いたしました。墨蹟に触れて心を養う、そういった時間も必要ではないでしょうか。

去る10月31日（日）に、多胡の白田金二氏が石塔開眼と亡父のだいらんき四十九日大練忌の法要を行いました。当寺ではその浄財にて、水屋前に石製のベンチを設置させていただきました。墓参や散歩など当寺に来られた際に休む場所として是非ご活用いただければと思っております。

また、傍には桜や銀杏の大木もあ

休憩用石製ベンチの設置

り、訪れる方々に季節の移ろいを感じさせていただけるとも思ひます。

→

水屋前に設置されたベンチ



仁叟寺通信-11-



↑ 什物（写真は160センチ以上もある江戸期の日栝位牌）の調査

当寺報でも何度か取り上げました『仁叟寺史』の編纂作業が大詰めを迎えております。平成13年に同編纂委員会が発足して以来、地道に古文書の解読、文物などの調査、他御寺院さまなど関係機関への取材を行って参りました。

先月には吉井町教育委員会に文化財の変更申請書を提出。火災に遭うことなく室町期より法燈を伝えてきた古刹に相応しい多くの貴重な歴史的史料が登録されるかと思われます。

寺史は、今年もしくは来年には完成の運びになるかと思われます。購入希望の方は当寺または仁叟寺までご連絡下さい。

13、14教区梅花講研修会

去る10月13日（水）に仁叟寺の檀信徒会館「欣光閣」に於きまして、梅花講の研修会が行われました。当日は、宗務所の梅花部長を務めておられる安中市の海雲寺様のご指導の下、13教区（甘楽富岡地区）14教区（多野藤岡地区）合同の講習となりました。

午前10時から午後3時過ぎまで、みっちり指導を賜り、また他寺院さまの梅花講講員の皆様方との交流も図れたかと思ひます。

なお、龍源寺の檀信徒で役員である田中忠男さんの奥様が梅花講に入講いたしました。以前から、当寺からの梅花講参加者を呼び掛けてはありましたが、田中さんが第一号と成りました。行持などがある際に

→ 熱心に講義を聴く



は、是非とも練習の成果をご披露して頂きたいと思っております。また、引き続き講員を募集しております。お問い合わせは、当寺までお願い申し上げます。

いはいとう

位牌堂の位牌安置について

当寺本堂の西側に位牌堂があります。当寺東堂で現仁叟寺住職大頭啓司大和尚代の昭和58年に建立されました。その位牌堂ですが、まだ位牌が安置されていない檀信徒の方で、位牌を納める希望のある方は、当寺までご連絡をお願い申し上げます。

特に仏様がおられる方は、ご一考いただければと思っております。寺が続く限り責任を持って供養をし、維持管理をいたします。

尚、同位牌堂の位牌安置は永代供養のそれとは異なります。希望する方



けいざん ぜんじ

↑ 本尊お釈迦さまと道元瑩山両禪師さまを中心に地域別にお位牌が並ぶ

及び詳細などのお問い合わせは当寺までご一報の程、お願いいたします。

どんど焼と道祖神信仰について

どんど焼という言葉は聞いたことのある方は多いかもしれませんが、実際その行事に参加したという方は少ないのではないのでしょうか？どんど焼は、「左義長」や「三九郎焼き」とも言い、また「どんど焼」「どんと焼」「とんど焼」など地方によっては濁音の位置が違うそうです。ちなみに、この「どんど」とは竹を集めて作ったやぐらのことを指すと言われております。ほぼ日本全国各地で行われている行事で起源は中国からで、日本に伝来したのは平安時代です。小正月の午前とに執り行われ、無病息災、五穀豊穡、家内安全を願いとどんど焼の火で暖まります。またその際に古くなった御札や御守、ダルマ、正月飾りなどもお焚き上げをいたします。

ここ吉井町では、道を司る道祖神さまの信仰とも重なり、どんど焼は道祖神さまに感謝をするという面も持っております。道の重なる場所、今で言う交差点ですがその付近で行うのもその名残です。昔の方は人やモノの往来する道というのに畏敬の念を持っていたのかも知れません。また点火をする前に道祖神さまにお参りし、そこで火を着けてから持っていく地域もあります。



↑ 龍源寺の道祖神さま ことも今を生きる我々にとって大切なことではないでしょうか。

ここ龍源寺の地元・多胡地区では昔から地域でどんど焼の行事を行っております。多胡地区の道祖神さまは当寺に集めてあり計四体遺されております。道祖神さまは原則的に一地域一体。このように多く集まっているのは、峠や境界などにある道祖神さまを別にすると大変珍しいとのこと

です。どんど焼に限ったことではないですが、古くから伝わる行事が年々なくなりつつあるのが今の日本の現状です。以前のごことが全て正しいというわけではありませんが、先祖が護ってきて代々受け継いできた行事の意義や歴史を知る



↑ どんど焼の様子

行雲流水(編集後記)

編集人 住職 渡辺龍道

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

さて、昨年を漢字一字で表すと「災」という字が選ばれたそうです。確かに、新潟の地震をはじめ台風や大雨など多くの災害がありました。当寺でも募金という形で、微力ではありますが協力をさせていただきました。被災地域の皆様の一日も早い復興をご祈念申し上げますと共に、今年は災に代わる明るい漢字が選ばれてもらいたいものです。

また、私が代表幹事を務めておりました高崎市との合併が二度にわたる住民投票の結果、白紙に戻り、吉井町は単独路線で進むことになりました。従来の決定を覆すほどの将来のことを考えての民意の結果だと思っておりますが、何か腑に落ちない感もあります。ともあれ、長い目でみた地域の発展を一住民として願っております。

